



インポート/エクスポートメニュー

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) の [Import/Export (インポート/エクスポート)] メニューを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースのデータの一部を、別のサーバ、または同じサーバ (データに変更を加える場合) との間でエクスポートまたはインポートする方法について説明します。これにより、事前設定済みのデータベースをインストール済みの Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートするために必要になる設定の時間が短縮されます。

- [設定データのエクスポート, 1 ページ](#)
- [.tar ファイルの編集, 9 ページ](#)
- [\[インポート/エクスポート \(Import/Export\)\] メニュー関連のトピック, 11 ページ](#)

設定データのエクスポート

BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager から設定データをエクスポートします。



(注) Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限版を使用している場合は、[インポート/エクスポート (Import/Export)] で VPN 詳細をエクスポートすることはできません。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [エクスポート (Export)] の順に選択します。
[データのエクスポート (Export Data)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションの [Tar ファイル名 (Tar File Name)] フィールドに、.tar ファイル名を拡張子なしで入力します。
BPS は、このファイル名を使用して設定の詳細情報をエクスポートします。
- (注) 同時にエクスポートされるすべてのファイルは、まとめてバンドルされ (.tar)、サーバからダウンロードできます。

- ステップ 3** [エクスポートする項目の選択 (Select items to Export)]セクションで、エクスポートするオプションを選択します。
- a) [システム データ (System Data)]で、該当するチェックボックスをオンにします。
システム データのオプション, (3 ページ) を参照してください。
 - b) [コールルーティングデータ (Call Routing Data)]で、該当するチェックボックスをオンにします。
コールルーティング データのオプション, (4 ページ) を参照してください。
 - c) [メディア リソース (Media Resources)]で、該当するチェックボックスをオンにします。
メディア リソースのオプション, (6 ページ) を参照してください。
 - d) [ユーザデータ (User Data)]で、該当するチェックボックスをオンにします。
ユーザデータのオプション, (6 ページ) を参照してください。
 - e) [デバイス データ (Device Data)]で、該当するチェックボックスをオンにします。
デバイス データのオプション, (6 ページ) を参照してください。
 - f) [拡張機能 (Advanced Features)]で、該当するチェックボックスをオンにします。
高度な機能のオプション, (7 ページ) を参照してください。
- (注) Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限バージョンを使用している場合は、[VPNプロファイル (VPN Profile)]、[VPNゲートウェイ (VPN Gateway)]、[VPNグループ (VPN Group)]、および[VPN機能設定 (VPN Feature Configuration)]の各チェックボックスが表示されません。Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限版を使用している場合は、[インポート/エクスポート (Import/Export)]で VPN 詳細をエクスポートすることはできません。
- ステップ 4** [すべて選択 (Select All)] ボタンを使用して一度にすべてのチェックボックスをオンにすることも、[すべてクリア (Clear All)] ボタンを使用してすべてのチェックボックスをオフにすることもできます。
- ステップ 5** [ジョブ説明 (Job Description)] フィールドに、ジョブに関する説明を入力します。「Export Configuration」 がデフォルトの説明です。
- ステップ 6** ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択できます (対応するラジオ ボタンを選択します) 。
- ステップ 7** 関連レコードも確実にエクスポートするためにテーブルの相互依存性を確認するには、[依存関係の確認 (Check Dependency)] をクリックします。
- (注) 依存関係を確認した後、任意のチェックボックスをオフにすることができます。また、依存関係の確認を省略することもできます。
 - (注) 依存関係の確認では、最大1つの依存関係レベルの依存アイテムが選択されます。たとえば、あるアイテムが CSS に依存している場合は CSS のみが選択され、CSS が依存しているアイテムは選択されません。
- ステップ 8** 選択したデータをエクスポートするジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。[ステータス (Status)]セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。
- ステップ 9** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの[ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル](#)

[ジョブのスケジュール設定の管理](#)

設定データのエクスポート オプション

BAT を使用して Cisco Unified Communications Manager から設定データをエクスポートするときにはエクスポート オプションを選択できます。

- システム データのオプション
- コール ルーティング データのオプション
- メディア リソースのオプション
- ユーザ データのオプション
- デバイス データのオプション
- 高度な機能のオプション

システム データのオプション

- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco Unified Communications Manager グループ
- [日時グループ (Date/Time Group)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- エンタープライズ パラメータ
- 参照先
- 電話用 (NTPPhone NTP Reference)
- 地域
- サーバ
- サービス パラメータ
- SRST
- セキュリティ プロファイル (電話および SIP トランク) (Security Profile (Phone & SIP Trunk))
- 物理ロケーション
- デバイス モビリティ グループ (Device Mobility group)
- プレゼンス グループ (Presence Group)
- LDAP システム (LDAP System)

- [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info)]
- DHCP サーバ (DHCP Server)
- DHCP サブネット (DHCP Subnet)
- アプリケーション サーバ (Application Server)
- LDAP ディレクトリ
- LDAP 認証
- [MLPP ドメイン (MLPP Domain)]
- [リソースプライオリティネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)]
- [リソースプライオリティネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)]
- CUMA サーバセキュリティプロファイル (CUMA Server Security Profile)
- [位置情報 (Geo Location)]
- [位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]
- Enterprise Phone Configuration
- 証明書
- [ユーザのLDAPカスタム フィルタ (LDAP Custom Filter for Users)]
- [グループのLDAPカスタムフィルタ (LDAP Custom Filter for Groups)]

コールルーティングデータのオプション

- アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)
- CSS (コントロールのクラス) (CSS (Class of Control))
- パーティション (コントロールのクラス) (Partitions (Class of Control))
- [ルートフィルタ (Route Filter)]
- 時間帯 (コントロールのクラス) (Time Period (Class of Control))
- スケジュール (コントロールのクラス) (Time Schedule (Class of Control))
- [トランスレーションパターン (Translation Pattern)]
- [AARグループ (AAR Group)]
- 強制認証コード
- ディレクトリ検索ダイヤルルール (Directory Lookup Dial Rules)
- クライアント マター コード
- コールパーク

- コールピックアップグループ (Call Pickup Group)
- [電話番号 (Directory Number)]
- ミートミー番号 (MeetMe Number)
- Cisco Attendant Console のパイロットポイント (Cisco Attendant Console Pilot Point)
- ダイレクトコールパーク
- SIPダイヤル規則
- 回線グループ
- ルートグループ
- ハントリスト
- ルートリスト
- ハントパイロット
- インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)
- インターコムのCSS (Intercom CSS)
- アクセスリスト
- ルートパターン
- 着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)
- SIP ルートパターン (SIP Route Pattern)
- インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)
- インターコムトランスフォーメーションパターン (Intercom Translation Pattern)
- 発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)
- 時刻アクセス (Time Of Day Access)
- 論理パーティションポリシー (Logical Partition Policy)
- CCD 要求サービス
- ホストDNグループ (Hosted DN Group)
- 学習パターンのブロック
- ホストDNパターン
- CCD アドバタイジングサービス
- [外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)]
- トランスフォーメーションプロファイル (Transformation Profile)
- CDD 機能設定 (CCD Feature Configuration)
- CDD パーティション (CCD Partition)

- モビリティ プロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)
- ハンドオフ設定 (Handoff Configuration)
- [エンタープライズ機能アクセスの設定 (Enterprise Feature Access Configuration)]
- ELIN グループ (Elin Group)

メディア リソースのオプション

- アナウンサー
- [会議ブリッジ (Conference Bridge)]
- メディア リソース グループ (Media Resource Group)
- [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]
- Media Termination Point (メディア ターミネーション ポイント)
- トランスコーダ (Transcoder)
- MOH サーバ (MOH Server)
- モバイル ボイス アクセス

ユーザ データのオプション

- SIP レルム
- Application User
- アクセス コントロール グループ
- [役割 (Role)]
- アプリケーション ユーザ CAPF プロファイル (Application User CAPF Profile)
- クレデンシャル ポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)
- クレデンシャル ポリシー (Credential Policy)
- エンド ユーザ
- エンド ユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)
- セルフプロビジョニング
- ユーザ プロファイル

デバイス データのオプション

- ソフトキー テンプレート (Softkey Template)
- ゲート キーパー (Gate Keeper)
- トランク

- [SIPプロファイル (SIP Profile)]
- 電話機サービス
- 電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)
- 共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)
- ゲートウェイ
- [Device Defaults (デバイスのデフォルト)]
- デバイス プロファイル
- 共通デバイス設定 (Common Device Configuration)
- CTI ルート ポイント
- 電話
- 録音プロファイル (Recording Profile)
- [リモート接続先 (Remote Destination)]
- リモート宛先プロファイル
- 機能管理ポリシー (Feature Control Policy)
- デフォルトのデバイス プロファイル (Default Device Profile)
- SIP 正規化スクリプト (SIP Normalization Script)

高度な機能のオプション



(注) Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限バージョンを使用している場合は、[VPN プロファイル (VPN Profile)]、[VPN ゲートウェイ (VPN Gateway)]、[VPN グループ (VPN Group)]、[VPN 機能設定 (VPN Feature Configuration)] のチェックボックスが表示されません。Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限バージョンを使用している場合は、[インポート/エクスポート (Import/Export)] 経由で VPN 詳細をエクスポートすることができません。

- メッセージ受信番号 (Message Waiting Number)
- ボイスメールパイロット
- ボイス メール プロファイル (Voice Mail Profile)
- ボイス メール ポート (Voice Mail Port)
- SAF フォワーダ
- SAF セキュリティ プロファイル (SAF Security Profile)
- EMCC リモート クラスタ (EMCC Remote Cluster)

- EMCC クラスタ間サービス プロファイル (EMCC Intercluster Service Profile)
- Intercompany Media Engine サーバ接続 (Intercompany Media Engine Server Connections) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Engine : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Engine : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service の信頼要素 (Intercompany Media Services Trust Element) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service の登録済みパターン (Intercompany Media Services Enrolled Pattern) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service の登録済みグループ (Intercompany Media Services Enrolled Group) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service の除外グループ (Intercompany Media Services Exclusion Group) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- フォールバック プロファイル (Fall Back Profile) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service の学習ルート (Intercompany Media Services Learned Route) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- [VPNプロファイル (VPN Profile)]
- [VPN ゲートウェイ (VPN Gateway)]
- [VPNグループ (VPN Group)]
- EMCC 機能設定 (EMCC Feature Config)
- Intercompany Media Service のファイアウォール (Intercompany Media Services Learned Firewall) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service 除外番号 (Intercompany Media Services Exclusion Number) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。

- Intercompany Media Service E.164 トランスフォーメーション (Intercompany Media Services E.164 Transformation) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service 機能設定 (Intercompany Media Services Feature Configuration) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- フォールバック機能設定 (Fallback Feature Configuration) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- VPN 機能設定 (VPN Feature Configuration)
- インフラストラクチャ デバイス (Infrastructure Device)

ログファイル (Log Files)

1 回のエクスポート トランザクションで複数のログファイルが作成されます。トランザクション全体に関する 1 つのファイルと、エクスポート用に選択された項目ごとに 1 つずつのファイルが作成されます。これらのログファイルには項目ごとに結果が書き込まれます。ログファイル名には、識別しやすいように項目名が先頭に付加されます。

これらのファイルには、[ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] ページからアクセスできます。

関連項目

[インポート/エクスポート (Import/Export)] メニュー関連のトピック、(11 ページ) を参照してください。

.tar ファイルの編集

tar ファイルは、複数の CSV ファイルと 1 つのヘッダー ファイルのリストとして構成されます。ヘッダー ファイルを使用して、エクスポートの実行元となったサーバとエクスポート実行時刻の詳細を参照できます。また、ヘッダー ファイルにはパッケージ内のファイルに関する詳細も含まれます。

BAT を使用して必要なデータをエクスポートした後、エクスポート済み .tar ファイルを直接変更することができます。エクスポート済み .tar ファイルは、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに配置されます。

手順

- ステップ 1 [Bulk Administration (一括管理)] > [Upload/Download Files (ファイルをアップロード/ダウンロード)] の順に選択します。

[ファイルの検索/一覧表示 (Find and List Files)] ページが表示されます。

ステップ 2 更新する .tar ファイルをダウンロードします。

ステップ 3 `tar -xvf` コマンドを使用して、マシン上の特定の場所に .tar ファイルを展開します。
指定した場所に .tar ファイルが抽出されます。

(注) “`tar -xvf`” コマンドは Windows サーバ上では機能しないことがあります。WWW で入手可能なフリーウェア 7-Zip を使用すると、Windows で TAR 操作と UNTAR 操作を実行できます。

(注) .csv ファイルの名前は常にアイテム名と同じです。

ステップ 4 Microsoft Excel を使用して .csv ファイルを編集し、変更を保存します。

(注) テキストエディタを使用して .csv ファイルを編集することもできますが、Microsoft Excel を使って .csv ファイルを編集することをお勧めします。

.csv ファイルのファイル名とファイル形式は決して変更しないでください。新しいファイルを tar パッケージに追加する場合は、Cisco Unified Communications Manager からエクスポートした場合と同じファイル名およびファイル形式になるようにしてください。また、新しいファイル名を必ずヘッダー ファイルに追加してください。

ヒント 新しいアイテムを追加する予定の場合は、必ず Cisco Unified Communications Manager からそのアイテムをエクスポートするようにしてください (そのアイテムのレコードが存在しない場合でも)。これにより、正しい名前とファイル形式の .csv ファイルが作成されます。

ステップ 5 `tar -cvf` コマンドを使ってファイルを再び tar し、新しい .tar ファイルを必ずデフォルトの共通場所に保存します。

(注) “`tar -cvf`” コマンドは Windows サーバ上で機能しない可能性がありますが、WWW で入手可能なフリーウェア 7-Zip を使用すると Windows で TAR 操作と UNTAR 操作を実行できます。

注意 ファイルを再び tar するとき、.tar ファイルの元のディレクトリ構造が維持されるようにする必要があります。これは、BPS がデフォルト場所でのみ .tar ファイルを検索するためです。

ステップ 6 .tar ファイルをインポート用にアップロードします。

(注) [インポート/エクスポート (Import/Export)] として [ターゲット (Target)] を必ず選択し、[インポート (Import)] として [トランザクションタイプ (Transaction Type)] を必ず選択します。

(注) テキストエディタを使用してファイルを更新することにした場合は、ファイル形式内の新しいエントリごとにカンマを追加する必要があります。

(注) インポート/エクスポート ツールでは、パスワードと PIN の属性を更新できません。これらは暗号化形式でエクスポート ファイルにエクスポートされるため、平文に変換できません。クレデンシャルを持つエンティティは、共通の電話プロフィール、SIP レルム、アプリケーション ユーザ、LDAP 認証、LDAP ディレクトリ、Cisco Attendant Console、およびエンドユーザです。エクスポート済みファイル内の `enduser.csv` の User ID、User Pkid、Password、および Pin の各フィールドを変更してはならないことに注意してください。

関連トピック

- [サーバからのファイルのダウンロード](#)
- [サーバへのファイルのアップロード](#)

[インポート/エクスポート (Import/Export)]メニュー関連のトピック

- [設定データのエクスポート, \(1 ページ\)](#)
- [.tar ファイルの編集, \(9 ページ\)](#)
- [サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索](#)
- [サーバからのファイルのダウンロード](#)
- [サーバへのファイルのアップロード](#)
- [サーバからのファイルの削除](#)
- [サーバへの設定のインポート](#)

